

年長組、第一保育期

— 満五歳から満六歳 —

生活訓練

第十三週

ものを大切に取り扱ふさいふこは、幼い子ぎもには相當むづかしいことである。もの、なんかに氣を配つてゐるべく、餘りに遊びに氣をこられてゐるからである。ものばかり大切に、ろくろく遊ばないやうだつたら御隠居さん幼稚園になつて仕舞ふ。そんな訓練をしようとするのではない。だが、しかし、それにしても、ものには使ひ方があつた。又もの、取扱ひの亂暴なのは、もの、問題としてよりは、その氣もちの問題として考へられて来る。大げさにいへば、その子の性格問題でもあつたりする。いくら遊びに夢中だからといって、椅子や机を蹴さばして、譯のものではない。蹴さばして平氣でゐられる筈のものでもない。

それを平氣でゐるこは、ここが粗暴性さいふこころをもつのかも知れないし、それから粗暴性の傾向をつくるこもあるに相違ない。

こころで此の習慣をつけるために種々の注意がいるが、大きく分けて間接注意と直接注意にするこが出来やう。間接注意さいふのは、個々の場合、その時々々の注意でなくして、全體的に、平生から氣をつけて置きたいこで、それに二つあつて、第一は全般の整理整頓をよくして置くこである。たさへば保育室の中が亂雑不整頓にされてゐて、その中で一つくものを大切に扱へさいつても無理なこである。その室の中にあるだけで、氣分が亂雑になり不整頓にされる。つまり、子ぎもに誘ひをかけるや

うなものである。同じ幼稚園の中で、ものゝ破損率の多い室と少ない室がある時、調べて見たら、その室の不整頓率に併行するかも知れない。子ぎもには別段そう／＼口やかましくいはないが、室そのものゝ整頓をよくつけてゐる保姆さんは、それが既に子ぎもへの訓練の基礎を置いてゐる人である。第二に、ものを破損のまゝにして置かないことである。いくら注意しても、ものは破損せざるにない。そうしたら直ぐ修理することにし、少なくとも一應別のところへ運び出して置くことにしたい。足のない椅子、破れたカーテン、その他何々々。そんな怪我をしたものを、そのままに使つてゐるのは、第一そのものに對して痛々しい話である。又、そんな破損状態に麻痺させることでもある。一體、ものを大切に取扱ふさいふことは、心もちこしては、ものをいたはるることである。可愛そうに、氣の毒に涙を流すまでとないにしても、びつこの椅子に平氣に腰をかけたゐるのは残酷である。次に直接的注意としては、その時に見逃さないで注意し、自然に習慣のつくやうにすることに他ならぬが、それは叱るのでなく、靜かな心づけであ

ることを忘れてはならない。「コラッ」、まさかそうでもあるまいが、先生のお聲が荒い、子ぎもは、びつくりしてやめても、心そのものは、そのお聲の如く荒くなるでせう。やさしみの習慣はやさしみでのみつけてやれることである。

第十四週

年少組の項参照。

追加

前にも一寸述べたやうに、此の保育案では七月がこゝで切れてゐるが、一般としては此の後少くも二週間、或はもつと後まで幼稚園が開かれてゐる。その間の生活訓練についてさういふことが必要であらうか。夏だからさいつて特別のことが有るさいふ譯でもなからうが、こゝでは特にさういふ見方で考へて見る。

その一つは汗の手と汗の顔である。それも遊んでゐる最中は素より問題にならない。子ぎもも平氣でゐるし、先生もそのまゝにしておくがよからうが、食事の時にお歸りの時、それは是非洗ふことにしたい。手はいつでも洗ふであらうが、顔も洗ふことにしたい。年少児の方は自分ひまり

ではむづかしいものあらう。年長兒でも手傳つてやらなければなるまいが、兎に角く、洗はなくては氣が濟まぬ習慣をつけたい。若し大勢の子で一々洗はせるのが大變なら、

なましぼりの手拭でよくふかせるのもよからう。さう汗のまゝ歸るのは面白くない。それに、暑い日には、時々靜かな休息の時間が欲しい。それも休息ミしてさせることはむづかしいかも知れないが、せめて、順々に、靜かに顔を拭いて歸る位のことは出來もするし、そうしたいことである。此の場合、手拭を必ず銘々別のにすることは言ふまでもない。一體、夏の間はハンカチ位では足りないから、銘銘の手拭が幼稚園に用意されてゐるのは當りまへのことである。よく名前を記して置き、子ぎもの歸つた後、よくすすぎ出して干かして置く。

これは子ぎもさいふより、先生のお手敷をかけることになるが、餘り汗でぬれてゐる子ぎもの下着は、ミリかへて歸してやりたい。汗のまゝの下着で電車なきへ乗つて、その意から風が吹き込む。いゝこゝろもちでうごゝする。かぜをひくことにもなるのである。御面倒ですがよろしく

お願ひしい、汗問題の序に一寸申し添へて置く。

次には水を飲む問題である。暑いゝ、汗があんなに出るのだから、のぎもかはく。水を欲するのは當然である。之れに就て、水を飲ますかぎうか。湯に限るか。飲ませるにしても制限するか自由にするか。そこは各園いろゝの主張があるであらう。一概にいふべきでないが、ちゃんとした水道のある土地なら、生水を飲ませたつて危険はないであらうし、その方が却つて清潔でもあり、からだの爲にもいゝであらう。但し、家庭ミ一致しないミ往々腹をこわすので、そこは實際に就て注意したい。さて、その水を制限するミしても、實行はむづかしいこと、飲みたい時飲むさいふので大體よからう。適當な設備が出來てゐて、一時にたんミ飲まぬやうになればよいのであらう。それには、吹き出し式栓水がいゝやうである。ちうゝ口をつけて吸ふので、口中ものぎも相當うるほひながら、水の分量ミしてはそう多いことにならない。

ミこゝろで、子ぎもによつては餘り度々飲むのがある。それは、からだの要求でもあらうが一つには習慣であるから、

生活訓練として注意を要するこゝになる。個々訓練であつて一齊のものではないが、さうかするこゝそれが組中の流行になつたりする。まあ大體に於て水はほんの時々、ほんのちよつと飲むといふ風に癖をつけたい。

第三には、これは一般幼稚園の設備になつてはならないが、夏季といふこゝからの希望としては、特に午後までの保育なら、午睡が必要になるであらう。その場合、よく眠るこゝの習慣、よく起きるこゝの習慣である。これは勿論、先生の方からの仕向けによるこゝであるが、矢張り一つの癖でもある。横になつたら直ぐ眠る。起されたら直ぐ機嫌よく目をさます。そのの中々出来にくい子もあるが、訓練によつて出来るこゝである。

これに就て、夏季も限らぬが、家庭でもその癖をよくつけるやうに打合はせたい。早寝早起きの時間的習慣の次に、寝つき寝おきの良習慣も極めて必要である。しかも寝おきの悪い子さもは澤山あるこゝで、それが一々大人の場合のやうに、神経衰弱といふ譯でもないから、一寸した訓練で直ぐなほせるこゝである。勿論、いろ／＼の内的外的

の條件に妨げられるこゝもあつて、その子の心がらだけではないが、それにしても躰がきくこゝで、午睡に限らず注意したい。その中でも寝起きの悪いこゝは一つは我まも手傳ふこゝで、さつさき起き、機嫌よく顔を洗ひこゝふ風に、初めはつゝめさせる必要もある。おゝさうかくで甘やかせて、大人の方で負けてはならない。それが、冬の朝は寒くて床を離れ難いこゝもあつて、夏では氣だけの話である。夏に於ける睡眠訓練として注意したい。幼稚園で午睡させる時は、その訓練が直接出来るが、そうでない場合には、家庭さよく打合はせる一方、その子にも、その話をよくしてお床にはいるこゝ直ぐ眠りますね、起きる時は直ぐはつきり機嫌よく起きますねと、一種の暗示を與へるのも效があるものである。大層睡眠のこゝをいふやうであるが、食事、排泄、睡眠さ此の三つこそ、乳兒は勿論幼兒でも、生活訓練の大きな基礎問題だからである。